

Title	「史学」の表紙の文字について
Sub Title	
Author	高橋, 正彦(Takahashi, Masahiko)
Publisher	三田史学会
Publication year	1981
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.51, No.1/2 (1981. 6) ,p.50- 50
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19810600-0050

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「史学」の表紙の文字について

高橋正彦

大正十一年十一月に「史学」が創刊されて、昨秋その巻数も五〇巻となつた。終始一貫その表紙には黒地に白くうかび出でている「史学」の二字がみられる。昭和十九年十一月刊行の第二十二巻第四号までは文字が上下に書かれ、戦後復刊第一号の第二十三巻第一号より左より右への横書とかわつた。長らく用いてきた紙型も近年かなりいたみ、輪廓もやや不明瞭となつてきただので、第五十一巻のスタートに際し、改版することとなつた。

この表紙の「史学」の二字はどうして選ばれたのか、また出典は何にか、年来関心をもつてきたのでいささか知るところを述べておきたい。

史学第四十一巻第四号で松本芳夫名誉教授が「雑誌『史学』のうまれるまで」と題して述べられておられるが、それによると表紙の史学という文字は、加藤繁教授が、中国の古い文字から選らばれたものであり……とある。当時本塾の東洋史の教授をされ、のち東大教授となられた加藤繁氏の選定になることが明らかである。しかしそこには文字の出典については何らふれられていない。

「史学」の二字はみられる通りやや右上りの文字ではあるが、筆力に満ちたかつ気品の高いものである。書風からみて中國のものであることはすぐにわかるし、また六朝時代の碑文よりとった文字と見当が付けられよう。

「史」「学」ともに北魏の正光三年（五二二年）の建碑である「張猛龍碑」より選ばれている。この碑は今も山東曲阜の孔廟の内に現存するというが、魏の魯郡の太守、張猛龍の徳を慕って郡内の有志によって造られたものである。全文一千字を超す碑文で、その前半「魏明帝景初中、西中郎將・使持節・平西將軍・涼州刺史」のおわりの「史」を、また後半の「千里開明 學建礼脩」より「学」を選んでいる。

張猛龍碑の拓本には各種あるが、いずれも明代以後のもので、中村不折藏の一本が最も古く、それ以前の宋元の旧拓は存在しない。史学の二字が何の拓本によつたかは定かでないが、恐らくは當時加藤氏の近辺にあつた明拓本か、あるいはその写真版より製版されたのである。なお西川寧先生のお話しによれば、史学創刊に当り史学科の長老教授より相談をうけた加藤繁氏が、當時、慶大の予科生であつた若き西川先生に意見を求めて、この「張猛龍碑よりの二字を選んだ」という。

史学刊行に先立つ歴史学の学術雑誌として史学雑誌 歴史地理、史林などがあるが、史学はその形式が史林（京都大学）に似ているといわれた。（松本信広氏「史学者としての田中翠一郎先生」、史学四十五一四、五九頁）史林の表紙の文字は隋の智永の千字文より採られたものであり、史学の二字もあるいはこの史林を見習つて中国の書の優品より選んだのである。